

所属・資格 教育学科・教授

申請者氏名 広田 照幸

研究課題		戦後日本における教育改革イデオロギーの研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	戦後日本におけるさまざまな時期の教育改革を嚮導したイデオロギーを、歴史社会的な観点から考察する。具体的には、①「教育と政治」が主題となった1950年代～1960年代初頭、②「教育と経済」が主題となった1960年代～70年代、③新自由主義的な改革ビジョンが登場してきた1980年代、④政治構造の変化と経済構造の変化が同時並行で生じていく中で教育改革が進んだ1990年代～現在、の4つの時期に関して、政策決定に関与(ないし抵抗)したアクターの違いに注目しながら、そのイデオロギーの対立構図を整理していく。以上の主題の中で特に今年度力点を入れて検討するのは、1960年代から70年代の時期のさまざまな労働運動が持っていた政治的文脈が教育をめぐる葛藤に与えた影響についての考察である。教職員組合の役員などにヒアリングをしながら、幅広く文献や資料を渉猟して検討を進めていく予定である。また、他の時期についても、文書資料の収集・整理のほか、聞き取り調査などを予定している。
	研究の結果	都道府県教組の役員やOBなどにヒアリングをしながら、幅広く文献や資料を渉猟して検討を進めた。今年度に焦点を当てた1960年代後半～70年代については、学校管理をめぐる問題や教職員組合と行政との関係など、深く掘り下げるべき主題が明確になったので、関連する史料を収集して整理を進めている。60年代の像が明確になってきたので、50年代までの状況を総括してまとめることが可能になり、平和教育と役員選出に注目して研究成果をとりまとめた。
	研究の考察・反省	高度成長期の教育・社会の変容がかなり見通せるところまで来た。労働運動と教育運動の両面を掘り下げて検討してきたので、従来の戦後教育史の記述の中に欠けているポイントを明確にできそうな段階まで来ているが、まだ実証的な検討が不十分な状況にとどまっているため、引き続き、関係者への聞き取り調査と史料の網羅的な検討とを含めたさらなる研究が必要である。ただ、「政治から経済へ」という1960年前後の転調の意味や構造を、どこか焦点づけて検討していく必要がある。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>(研究発表)</p> <p>広田照幸「日教組のスローガン『平和を守り真実をつらぬく民主教育の確立』の成立と教育基本法」日本大学教育学会秋季学術発表会(2022年11月5日)、於日本大学文理学部。</p> <p>広田照幸「第11回定期大会における旭丘中学事件と政治的中立」速記140年記念フォーラム「1954年日教組速記史料の解説——速記科学と教育史学の連携による新たな歴史——」(2022年12月11日)、日本大学文理学部百周年記念館国際会議場。</p> <p>(研究成果物)</p> <p>広田照幸「日教組のスローガン「平和を守り真実をつらぬく民主教育の確立」の成立過程」『教育学雑誌』第59号、日本大学教育学会、2023年3月25日、1～14頁。</p> <p>〔印刷中〕広田照幸「結成時の日教組における役員選出について(上)」『日本教育史往来』2023年4月号、日本教育史研究会。</p>